

【令和4年度第3回農村振興施策検討委員会】

みやぎの地域資源保全活用支援事業について

- 1 令和4年度の実績（見込み）について 【P1】
- 2 令和5年度の計画について 【P3】



【第9回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテスト(R3)】

—宮城県中山間地域活性化推進協議会長賞「暑い日の作業」(角田市)—

宮城県農政部農山漁村なりわい課

1. 令和4年度の実績（見込み）について【補正後 9,960 千円（当初 13,000 千円）】

みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）は、中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施しているもの。

なお、令和4年度の実績（見込み）は、以下のとおり。

(1) 基金運用見込み

(単位：千円)

	R3年度 実績	R4年度 実績（見込）	増 減	対前年比
基金元本（年度末）	667,028	658,205	▲8,823	99%
基金積立	0	0	—	—
基金戻し入れ	28	13	▲15	46%
基金取崩	6,481	8,936	2,455	138%
基金運用益 〔※R1～R3 平均〕 〔4,828 千円〕	3,990	923	▲3,067	23%

(2) 主な取り組み（事業費 9,960 千円）

- ① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助（事業費 2,100 千円）
県内 11 の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付
- ② 第 10 回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテストの開催（事業費 150 千円）
農業農村の魅力を広く紹介するため、フォトコンテストを開催（宮城県中山間地域活性化推進協議会、宮城県土地改良事業団体連合会と共催）した。
また、県庁 1 階ロビーにおいて、第 9 回入賞作品の展示を行い、広報活動を実施したもの。
 - ・募集期間 令和 4 年 8 月 1 日（月）から 12 月 28 日（水）まで実施
 - ・審査日 令和 5 年 2 月 9 日（木）
 - ・県庁 1 階ロビー展示期間 令和 4 年 8 月 1 日（月）～ 5 日（金）
 ※第 9 回入賞作品

③ ふるさと水と土指導員研修会の開催等（事業費 1,750 千円）

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム等（旧ふるさと水と土基金全国研修会）については、令和 5 年 1 月 23 日（月）～24 日（火）に砂防会館別館 1 階シェーンバッハ（東京都）において、3 年ぶりに開催されたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、本県からの参加者はいなかった。

なお、地域住民活動の活性化推進を担うふるさと水と土指導員を支援することを目的に次の研修会を開催したもの。

- ・中山間地域等地域資源保全活用研修会 令和 5 年 2 月 13 日（月）
オンライン開催 9 人参加

④ 地域住民活動促進事業（事業費 5,000 千円）

令和 4 年度における地域資源等保全活用支援事業（事務所提案事業）は下記のとおり。

- ・疣岩分水工資源活用支援事業（大河原地方振興事務所）
施設の目的や仕組み等を説明する看板を作成，設置することにより，多くの県民等に対し，農業用施設の理解促進を図るもの。
- ・生物多様性に配慮した環境づくり（仙台地方振興事務所）
住民向けの環境学習会などを開催し，生物多様性の重要性について理解促進を図り，今後の保全活動における協力体制を構築するもの。

⑤ 地域住民活動の人材育成（事業費 960 千円）

宮城県農業大学校と連携し，大崎地域世界農業遺産の巧みな水管理システムの維持継承に向けた人材育成を図るもの。

また，新たに農業関係高等学校との連携構築により，農業大学校の進路選択に繋がるような人材育成を目指すもの。

なお，令和 4 年度に実施した教育機関との連携内容は，P 5 のとおり。

⑥ 国の事業実施計画における成果目標に対する実績見込み

- ・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標 3 地区】⇒ 2 地区
- ・地域住民活動，調査研究等に係る補助事業 【目標 12 団体】⇒ 11 団体
- ・ふるさと水と土指導員の研修会 【目標 1 回】⇒ 1 回
- ・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者） 【目標 3 人】⇒ 0 人
- ・第三者検討委員会の開催 【目標 2 回】⇒ 3 回

2. 令和5年度の計画について 【当初予算 13,000 千円（前年当初 13,000 千円）】

みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）を実施し，中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため，活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施するもの。

なお，令和5年度の計画は，以下のとおり。

(1) 主な取り組み（事業費 13,000 千円）

- ① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助（事業費 2,640 千円）
県内 11 の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付予定
- ② 第 11 回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテストの開催（事業費 150 千円）
農業農村の魅力を広く紹介するため，フォトコンテストを開催予定（宮城県中山間地域活性化推進協議会，宮城県土地改良事業団体連合会と共催）
- ③ ふるさと水と土指導員・保全隊研修会の開催等（事業費 1,750 千円）
ふるさと水と土指導員等の交流を兼ねた研修会を開催予定
- ④ 地域住民活動促進事業（事業費 6,500 千円）
地域資源の保全活用について，各地域の特徴ある保全・活用を図るため，各地方振興事務所からの提案事業を実施するもの（今後，要望量調査を実施）
 - ・地域資源保全活用調査（3 地区，事業費 4,500 千円）
 - ・地域資源保全活用工法研究（2 地区，事業費 2,000 千円）
- ⑤ 地域住民活動の人材育成（事業費 1,960 千円）
宮城県農業大学校及び県内の農業関係高等学校との連携構築により，農業人材の育成を目指すもの。
 - ・農業大学校 490 千円，農業関係高等学校（6 校） 1,470 千円
- ⑥ 国の事業実施計画における成果目標
 - ・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標 3 地区】
 - ・地域住民活動，調査研究等に係る補助事業 【目標 12 団体】
 - ・ふるさと水と土指導員の研修会 【目標 1 回】
 - ・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者）【目標 3 人】
 - ・第三者検討委員会の開催 【目標 2 回】

令和4年度の活動⑤ 地域住民活動の人材育成（宮城県農業大学校）

- ▶ 農業者に世界農業遺産を普及するための人材育成の一環として、宮城県農業大学校において、世界農業遺産「大崎耕土」の内容を盛り込んだ講義を実施するもの。

1 目的

- 宮城の農業の将来を担う人材として、大崎耕土の水管理システムがもたらす多面的機能や農村環境の保全についての理解を深める

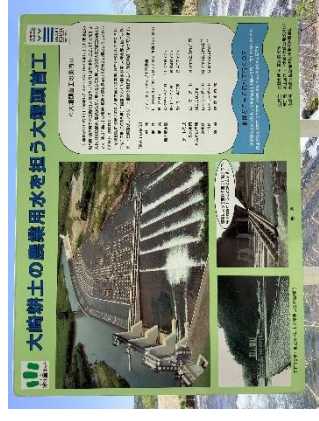
2 実施内容

(1) 1年次（全学部学生58名）

- ・ 内容：「農学基礎実習」の授業として「世界農業遺産と水管理システムについて」（講義・見学）2コマ
- ・ 実施場所：水田経営学部教室・農業水利関連施設等
- ・ 講師：宮城大学事業構想学群 郷古雅春先生
- ・ 時期：5月10日

(2) 2年次（水田経営学部学生6名）

- ・ 内容：「キャリア形成プログラム」の授業として「農村環境と生き物調査」（講義・実習）2コマ
- ・ 実施場所：水田経営学部内水田
- ・ 講師：大崎市世界農業遺産推進課職員
- ・ 時期：6月21日



令和4年度の活動⑤ 地域住民活動の人材育成（農業関係高等学校）

- ▶ 農業者に世界農業遺産を普及するための人材育成の一環として、大崎管内の農業関係高等学校において、世界農業遺産「大崎耕土」の内容を盛り込んだ授業等を実施するもの。

1 目的

- 宮城の農業の将来を担う人材として、大崎耕土の水管理システムがもたらす多面的機能や農村環境の保全についての理解を深める

2 実施内容

(1) 加美農業高等学校

- ・ 内容：「大崎耕土」に係る講義の実施，屋敷林「居久根」の現地視察，啓発物資（消しゴム，クリアファイル）の作成等

(2) 小牛田農林高等学校

- ・ 内容：「大崎耕土」関連施設（ニツ石頭首工，内川，沢田地区居久根など）の見学，大崎土地改良区の職員による講話の聴講等

(3) 南郷高等学校

- ・ 内容：「大崎耕土」内にある「ため池」における希少生物の保全対策，文化祭等における農耕儀礼「鬼首神楽」の鑑賞等



令和5年度みやぎの地域資源保全活用支援事業概要

事業目的

中山間地域等は、過疎化、高齢化等の著しい進行により、地域の活力が低下しつつある。農地や土地改良施設等の地域資源の利活用を基本とし、地域住民活動の多様な展開を促進することにより地域の活性化を図り、地域住民活動を推進する人材の育成、地域資源の利活用及び保全整備等を促進するものである。

【基金】・H5～9年度基金造成 660,000千円（抛割割合：国1/3、県2/3）

・R4年度末基金残高 658,205千円（R5年3月末時点見込み）

【根拠】・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱

・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱

県条例及び要綱・要領等

- ・中山間地域等農村活性化基金条例（H31.3改正）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業実施要綱（R2.4.1施行, R4.2.1一部改正）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業補助金交付要綱（R2.4.1施行, R4.2.1一部改正）

事業内容

予算額：13,000千円（内6,500千円事務所提案枠）

（1）地域資源に係る調査研究事業【7,330千円】

地域住民活動による土地改良施設や農地等の維持、補修、保全などの農山漁村振興に関わる調査や資源活用の検討を支援

①ワークショップ等による住民活動支援、土地改良施設等地域資源の工法研究

（2）ふるさと・水と土指導員等研修事業【2,987千円】

①地域住民活動の活性化を図る指導員やリーダーの人材育成・確保

②世界農業遺産人材育成に係る教育機関との連携（農業大学校・高校）

（3）地域資源の保全活用推進事業【2,683千円】

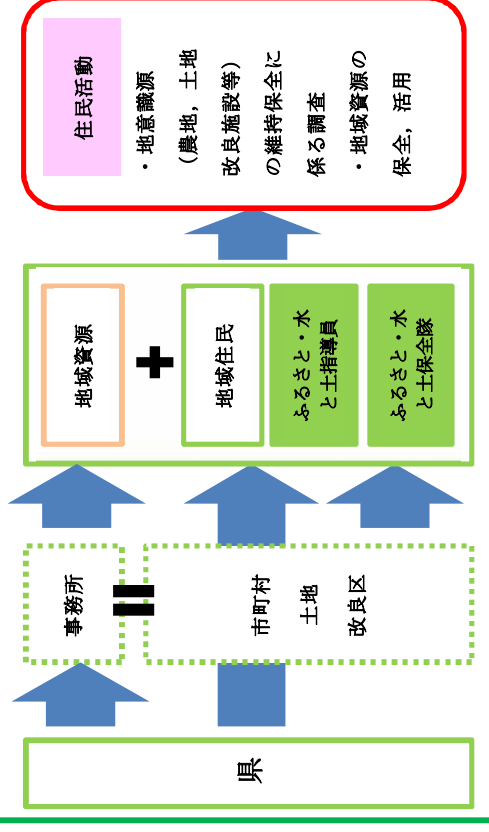
地域資源を活用した地域住民活動を実践する組織の構想化、設立支援及び活動への支援

①農村振興施策検討委員会の開催

②歴史的価値がある施設や環境配慮、親水施設等の地域住民が参画した保全活動を支援

③農村コミュニティの活性化による住民活動支援

事業の流れ



地域資源とは

自然環境、特産物、伝統的技術、文化財、歴史的・文化的施設、人材、コミュニティ等

事業効果

- ・歴史や文化、環境、生態系、景観など保全すべき資源調査による地域特有の資源が再発見され、6次産業化などの新たな起業が創設される。
- ・地域住民活動による農村に伝わる伝統文化及び伝統食の継承等により、コミュニティの維持及び農村地域の活性化が図られる。